

平成29年度 第1回地域ネットワーク部会 (在宅障害者と家族への包括的支援を考える検討会) 議事録

日 時：平成29年6月22日（木）18：30 ～20：00

会 場：ウェルとばた 6階 6B 研修室

参加者：門田 光司、深谷 裕、上野 則行、南里 佳代子、久門 正子、神田 美栄子
川尻 主史、柳沢 享（敬称略）

事務局：北九州市保健福祉局障害福祉部障害者支援課

委託相談支援事業所（北九州市発達障害者支援センター、北九州市立総合療育センター地域支援室 北九州障害者しごとサポートセンター）

北九州市障害者基幹相談支援センター

○参加者紹介

○議 事：

（1）地域ネットワーク部会の目的と進め方について

- ・地域ネットワーク部会を開催するにあたり、北九州市障害者自立支援協議会概念図について事務局より説明を行った。
- ・地域ネットワーク部会の目的と進め方について、開催時期、会議の公開について、構成員、主な検討課題（案）、検討の成果について、今後の予定を事務局より説明を行った。

（2）在宅障害者支援の現状と今後の計画について

- ・以下について、事務局より説明を行った。

①平成28年度北九州市障害児・者等実態調査の報告について

②（次期）北九州市障害者支援計画について

③北九州市地域福祉計画（中間見直しプラン）について

（3）意見交換

<A 委員>

- ・現職で2年間活動してきたが、地域で障害のある人がどこに住んでいるか把握できていない現状がある。障害のある人を把握しているのは10%程度で、支援をしている障害者は4%。相談を受けている障害者は1%にも満たないが、把握できた方は地域行事にお誘いしている。
- ・地域で暮らす障害のある方との活動報告をまとめているので、機会があれば発表したい。

<B 委員>

- ・主な検討課題の「情報提供、情報共有」についてとてもいい課題だと思う。
- ・実態調査アンケート結果を興味深く拝見したが反省している。今後身近に相談できる窓口としてどうするか一緒に検討していきたい。

<C 委員>

- ・当事者家族の立場として、現職を担っているが、個人情報保護が厳しく、障害のある方の情報が入ってこない。どうやって障害のある方の情報を得るかが悩みである。
- ・いきいきバリアフリー交流を行い、地域に暮らす障害のある方を自然体で地域に組み込む活動を行った。

<D 委員>

- ・学校在学中は手厚い支援・連携があるが、卒業後就職し、離職した後に支援の連携が途切れ孤立

している。そのため働ける力を持っているのに、次のステップに行けずにひきこもる傾向にある。そういった方を応援する活動に取り組んで行きたい。

<E 委員>

- ・サービスを提供する側として、実態調査アンケート結果の「利用したことのある相談機関」に利用事業所が入っていない。地域に根差したオープンな事業所になれば、相談機能も充実していくのではないかな。

<F 委員>

- ・20年間障害者相談窓口として、社会システムにのらないサービスにつながらない人への支援を主に活動している。
- ・実態調査アンケート回答率が半数であり、その結果から色々と推察できる。アンケートを回答し、提出できる人は相談できる人だと思うが、障害のある方が何かトラブルにあった時を見逃さず、つなぐことが重要と思われる。

<G 委員>

- ・実態調査アンケートで、相談先が身近な人であるのは自然なことである。
- ・課題が山積みであるが、教育、医療、福祉等、形の違う連携が重要である。在宅障害者と家族への包括的支援を考えるアクションプラン（基本方針、行動計画）を作成し、具体的に実行するところまで議論を進めたい。

<A 事務局>

- ・実態調査アンケートに興味深く拝見した。貴重なデータである。
- ・相談が途中で切れない様に関わりたいが、家族からの拒否があり難しいこともある。本人の課題もあるが、家族の課題もある。
- ・身近に気軽に相談できる場所として、専門性や技術の向上に努めたい。

<B 事務局>

- ・相談すること自体ハードルが高い。相談につながるまでが課題である。
- ・まずは日常的に関わる人、機関が発信できる入口、ファーストコンタクトになることが重要で、その先に専門機関があるのではないかな。

<C 事務局>

- ・家族が相談にきて、本人が相談に来ないことが多いことと、何か所も相談に行くが、相談が継続せず支援が途切れてしまうことが課題である。

*全8回開催予定としており、第4回まで日程が決定している。今後は障害当事者、ご家族の方にもご参加頂き課題についての検討を行う。

以上